

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://seaclub.power.co.jp/
E-mail:gyoren@power.co.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699
JF 香川漁連

水産関係団体通常総会おわる

平成 14 年度の水産関係団体通常総会は、5 月 29 日の漁業信用基金協会をかわきりに、6 月 18 日・漁業共済組合、20 日・共水連、24 日・漁船保険組合(総代会)、26 日・県信用漁業協同組合連合会、(社)遊漁船業協会、27 日・県漁業協同組合連合会、(社)水産振興協会の総会が、それぞれ漁連会館 6 階大会議室で開催され、各団体とも提出された議案は全て原案どおり可決承認された。



就任挨拶をする服部新会長

県 漁 連

新会長に服部郁弘氏を選任

田村会長の開会挨拶につづき、真鍋香川県知事の来賓挨拶があり、議長に仁尾町漁協の大平組合長を選任し、上程された 11 議案はすべて原案どおり可決承認された。

平成 13 年度全般的事業の概要

依然厳しい漁業経営環境の下で、平成 13 年度における本県水産業を振り返ってみますと、ハマチ・カンパチを中心とする魚類養殖業は、夏場の赤潮被害もなく、県内産ハマチは 1 月上旬に出荷を終了できましたが、市況の低迷により厳しい結果となりました。

また、ノリ養殖業は、ほぼ順調に生産が開始されましたが、1 月以降珪藻プランクトン(ユーカンピア)が発生し、急激な栄養塩の低下による色落ちの発生と産地間の競合による単価安もあって、生産枚数は前年比 96%、生産額は前年比 69%の実績となりました。

ました。

また、カタクチイワシ漁は、本年度は数量で前年比 90%、金額で前年比 114%の実績となり、昨年に続きまずまずの結果となりましたが、漁船漁業全体としては、依然として漁獲不振と魚価の低迷が続いています。

こうした状況のもと、本年度経済事業取扱高は、前年比 89%の 603 億円と厳しい結果となりましたが、鮮魚類の不振(前年比 91%)と乾ノリ(前年比 69%)が主な取扱い減の要因です。

収支状況は、経常利益で前年比 103%の 5 億 7,254 万円とやや前年を上回りましたが、部門別では、鮮魚類が不振な中、東京、大阪両支所の回復が目立っています。

その他、漁船漁業対策として、流通対策室を設置して販売促進を図ったほか、大型種苗の放流を継続実施するとともに、サワラ資源回復計画の取組みなど資源管理型漁業の推進に努めました。

さらに、漁協系統の事業・組織基盤の強化を図るため、「組織強化推進室」を中心に 6 地区で合併推進協議会を開催し、合併・事業統合の取組みを推進し年度内に 3 件の合併が実現できました。

また、懸案であった団体統合についても、会員の皆様を始め沿海市町の参加を得て、1 月 30 日に社団法人香川県水産振興協会として設立総会を開催し、4 月 1 日設立に向け準備を進めました。

会員をはじめ関係各位のご協力に深く感謝申し上げます。

平成 14 年度基本方針

1. 漁協が自立し得る事業基盤の確立を目指し、「組織強化推進室」を中心に合併・事業統合等に取り組みます。
2. 漁船漁業振興対策として、従来行ってきた大型種苗の放流事業等は、(社)香川県水産振興協会に移管しますが、本会としても積極的に協力するとともに、サワラの資源回復計画の実施をはじめ、複合的資源管理型漁業を推進します。
3. ハマチをはじめとする県内水産物の PR 並びに販路開拓・消費拡大に努めます。

- 4. 魚類養殖の種苗及び飼料の良質・適正価格での安定供給並びに魚価の安定と拡販に努めます。
- 5. 本県ノリ養殖漁場に適合した優良品種の育成、種網の安定供給とノリ共販事業の合理化に努めます。

以上の事項を重点に、積極的かつ効率的事業運営を行いますので、会員をはじめ関係各位のご協力をお願いいたします。

また、任期満了に伴う役員の変更が行われ、代表理事会長を 2 期 6 年務めた田村会長は退任し、後任の第 6 代会長に服部郁弘副会長が選任されたほか、役員には次の方々を選任されました。

選任された新役員

代表理事会長	服部郁弘 (昇任)
代表理事専務	竹沢 忠 (昇任)
常務理事	尾崎正住 (新任)
理 事	原 連 (新任)
〃	嶋野勝路 (重任)
〃	地濱 稔 (重任)
〃	岡田俊二 (重任)
〃	柳生 忠 (重任)
〃	森 勝典 (新任)
〃	濱田正春 (新任)
〃	洲賀崎久 (新任)
〃	浅野博海 (新任)
〃	富山晴良 (新任)
代表監事	小濱福重 (新任)
監 事	名和基延 (新任)
〃	濱川貞雄 (新任)
〃	高橋 譲 (重任)
〃	谷本治夫 (新任)

平成十四年度放流事業順調に推移

平成 14 年 4 月 1 日に発足した(社)香川県水産振興協会の中核的業務として推進している大型種苗放流が 5 月初旬より開始され、ヒラメ、ベラは終了し、6 月下旬から抱卵マダコを放流中で長崎県より搬入している。放流後に、県下の地先で産卵・成長して漁獲されることを期待したい。

7 月上旬よりクルマエビ種苗の放流と、10 ~ 11 月のオコゼ種苗の 5 魚種の放流を計画している。

同協会の放流事業は、昨年までの 16 年間、県漁連が実施していた事業を継承しており、漁船漁業の活性化や水産資源の増大ならびに資源管理型漁業の意識の高揚を図ることを目的としている。

また、同協会では、より効果的な放流事業を推進する為に、栽培漁業分科会を設置し、第 1 回分科会を 5 月 30 日に開催した。同分科会では、放流方法、放流場所等の検討、放流効果追跡調査、資源管理型漁業との関連についてなどが委員の間で協議され、今後の放流事業の参考にするとともに、漁獲量のデータ収集について委員に協力依頼を求めた。

今後の香川の漁業発展のためには、放流事業ひいては、栽培漁業の推進、あるいは、資源管理型漁業の推進なくしては成り立たないと思われるので、漁業者の皆さんの更なるご協力をお願いしたい。



ヒラメの放流

サワラ稚魚大量放流に成功!!

6 月 5 ~ 6 日に(社)日本栽培漁業協会屋島事業場から配布されたサワラ種苗が県内 5 箇所中間育成が実施されました。

今年の種苗は生産段階でビタミン剤で栄養強化するなど、非常に活力の高い種苗が生産されました。種苗生産が非常に順調であったため、当初の生産目標尾数 11 万 5 千尾に対して、18 万 4 千尾が生産されました。そこで急ぎ直接放流を行うことが検討され、屋島東小学校の 5 年生 24 名の協力を得て、5 万 1 千尾(3.5 cm)のサワラ稚魚が屋島湾へ放流されました。残りの 13 万 3 千尾を東讃鯖流し網組合、女木島漁協、宇多津漁協、香川県、岡山県日生町漁協へ配布され、中間育成が行われました。

結果は表 1 のとおりでサワラ漁業者グループによる放流では 2 万 8 千尾、県水産課普及室による小田の大規模中間育成場で 3 万 3 千尾(推定)、県栽培センターで約 4 千尾など合計で 7 万 2 千尾(10 ~ 11 cm)の大型種苗が中間育成放流されました。直接放流分を合わせると今年度は 12 万 3 千尾のサワラ稚魚を放流することができました。

6 月 20 日に行われた、さぬき市小田の県大規模中間育成場での放流式には、『さわら瀬戸内海系群

資源回復計画』の初年度でもあることから、水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長を始め県内漁業関係者、徳島、兵庫県の漁業者ら約 100 名が出席し、小田小学校 5, 6 年生約 25 名も参加して、強風雨の中での放流となりましたが「大きくなって帰ってこい

よ」と期待を込めて放流しました。

今後とも、県内漁業者、関係府県の協力を得ながら、種苗放流や漁獲努力量の制限など様々な手法を行い、サワラ資源の早急な回復を目指していきます。
香川県農林水産部水産課 牧野弘靖



宇多津での中間育成魚の放流



屋島湾での直接放流

表 1 中間育成結果及び直接放流結果

中間育成担当	放流サイズ	生残率	放流尾数
東讃鯖流し網組合(小田)	9.3cm	42.1%	8,426尾
女木島漁協	10.5cm	73.6%	10,998尾
宇多津漁協(与島漁協)	10.1cm	58.8%	8,180尾
香川県水産課(小田)	11.2cm	64.7%	33,000尾
香川県栽培漁業センター	10.9cm	67.0%	4,468尾
岡山県日生町漁協	10.0cm	70.0%	7,000尾
小計			72,072尾
屋島湾への直接放流	4.0cm		51,000尾
合計			123,072尾

新しい組合長紹介

(敬称略)

高松市東部漁協

新任 片岡圭三
(平成 14 年 2 月 26 日付)

退任 中村幸男



主な行事予定(7/1~7/31)

- 7月 2日(火) 漁協職員実務研修会
- 7月 3日(水) 香川県かん水養殖漁業協同組合理事会
- 7月 9日(火) 香川県漁連理事会
- 7月10日(水) 平成15年度採用職場説明会
- 7月12日(金) 平成15年度採用職場説明会
- 7月16日(火) 水産資源愛護ポスター審査会
- 7月17日(水) 漁協婦人部大会
- 7月25日(木) 第34回放魚祭
- 7月31日(水) 香川県かん水養殖漁業協同組合通常総会